

# 光星スタンド喜び爆発

## 部員誇らしげ、父母に涙も

八戸勢対決となった全国高校野球選手権青森大会の決勝。弘前市はるか夢球場のスタンドには、八戸学院光星高と八戸工大一高の応援団が駆け付け、頂点を目指すナインの熱戦を見守った。

150人近い野球部員や全校応援の生徒、保護者らが陣取った光星高の三塁側スタンド。応援団は吹奏楽の音色に乗せてメガホンをたたき、曇天を吹き飛ばすかのようにエールを送った。

試合では、準決勝までの不振がうのように快音を連発。六回まで長打7本を含む計12安打。打線が爆発するたびに、スタンドは沸きに沸いた。

涙を流しながら試合を見守ったのは、一回に先制打、五回に本塁打を放った中軸織笠陽多の父勝之さん(46)と母順子さん(51)。「甲子園に連れて行く」と宣言していた息子の活躍に「誇らしい」と目を細めた。

九回に1点差まで詰め寄られるなど、最終盤はひやひやする展開となったが、結果は3年ぶりの夏制覇。

スタンド最前列で仲間を励まし続けた長崎楓雅さん(八戸市出身)は「自分たちが自信を持って送り出した投手陣がやってくれた」。松館慶汰さん(野辺地町出身)は「3年の最後の夏に決められた。甲子園でも、打撃力を発揮してほしい」と声を弾ませた。(加藤弘也)

優勝に喜びを爆発させる八戸学院光星高の野球部員＝22日、弘前市

